

「無人駅」廃止★しかし... とも差別配転



1988.2.5

No. 2752

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「人活」以来3年に及ぶ差別をやめろ ただちに原職に戻せ！

遂に「無人駅」廃止

第二人活「無人駅」は遂に廃止された。千葉運行部は佐原・成東・一の宮・木更津の無人駅管理業務を一月末をもって廃止し、国労の仲間を含め十二名を駅及び直営店に配転した。

かつて、国鉄当局は労働運動解体のみを目的に、後世にその悪名を残すであろう人活センターに、役員・活動家のことごとくをたたきこんだ。しかし、それはあまりに露骨で、あまりに悪質な隔離策であったがために、労働者の怒りは大爆発し、センターの廃止を勝ちとったのだが、当局はそれに変えて「無人駅管理」なるものをデッチ上げ今日まで強行してきた。

敵のねらいはあくまでも役員・活動家の隔離分断、屈服強要にあり、人活を見せしめに職場で闘う仲間への恫喝にあった。それを見すえた「無人駅」の仲間達は、ますます怒りをたぎらせ不屈に闘いぬき、また各支部では続々と新支部体制を構築し、役員パージが全くの無力であったことを敵に知らしめたのだ。今、われわれは人活に続き「無人駅」の廃止を勝ちとった。まさに、当局の攻撃は破産の連続でしかない。もはや「何をやっても崩せなかつた」事を満天下にしめしてしまつたのだ。

原職奪還・出向攻撃を粉碎しよう

追いつめられ当局は、今また策意に満ちた差別配転を強行した。

その第一に、当局は「原職に帰せ」と言う当然の要求を一切無視し、「無人駅」廃止にもかかわらず、所属区に帰さず、またもやタイ廻しの配転をした。とりわけ今回初めて、直営店への強制配がなされたのである。

第二には、十二名を更に差別するがごとく直営店と駅とに選別したことである。その結果、ほとんどがより通勤困難な遠隔地へ配転されている。

第三には、駅の場合も全員を一名づつ分散した上であえて遠方の閑散駅に配置したのである。これらを見るまでもなくあまりにデタラメな、差別攻撃は今なお貫らぬかれている。



原職奪還の闘いは開始されたに過ぎない。「無人駅」の廃止をわれわれは勝ちとった。しかし、ハンドルはまだ我が手ににぎりしめてはいない。今後ますます強まるであろう強制配転、出向攻撃を粉碎し、解雇者・清算事業団の仲間を奪還しよう。

東日本・住田は国労、動労千葉の絶滅をねらい、二万人の出向に関連事業、保守部門ののきなみ社会化を画策している。住田の二万人首切り発言を断じて許してはならない。強制出向にはストライキをもって粉碎しよう。革マル・鉄道労連の解体を勝ちとろう。